

コンプライアンス・ポリシー

一般社団法人リアルエクスペリエンスは、「フリーダム・アイランド」運営にあたり、次の通りコンプライアンス・ポリシーを定めます。スタッフや、スクール生とその保護者をはじめ、関わるすべての人に遵守していただくルール・規範です。

1

人権、児童（18歳未満）の権利、差別、ジェンダー

1. ここではすべての人が平等です

すべての大人と子どもは「ひとりの人」です。子どもだからと半人前にあつかわず、フェアに接します。性別、容姿、体格、人種、皮膚の色、言語、社会的出身、財産その他で不用意に区別したり、中傷したりしません。性同一性障害、性的マイノリティ等についても、秘匿の希望等も踏まえて、十分に配慮できるように可能な限りの努力を行います。

2. 自分で選び、自分で決め、思うように行動してみよう

「何をするか」「何をしないか」を、自分で決める自由を保証します。自由な環境を成り立たせ、プログラムを円滑に運営するための必要最小限のルール／制約を除き、それ以外のところで何かを強制したり、押しつけたりしません。

スクール生を含むすべての人には、自分の意見を表明する権利があります。また一人ひとりの意見は尊重され、十分に考慮されるべきものとして扱われます。コミュニティのルールは、正当な手続きを経れば、スクール生たちがいつでも変更できるようにします。

3. オトナはコドモの、コドモはオトナの視線になって世界を見てみよう

すべての大人と子どもは、相手の考え・気持ちを想像し、お互いに歩み寄ることを大切にします。一人ひとりが別個の人間であることはもちろん、年齢や立場、育ってきた環境も違うために、完璧には理解できないとしても、理解しようと努力します。

4. 一人ひとりの大切にしたいことを尊重しながら、自分も自由になる方法を考えよう

意見の違いや衝突を忌避せず、価値観・考えの違う他人と、「いったいどうやって共存すればいいのか？」を試行錯誤します。「自分の自由」と「誰かの自由」が衝突して、うまくいかないときもあります。自分の「自由」を守ることは、何よりも大切です。そして言うまでもなく、ほかの誰かの「自由」を尊重することも、同じくらい大切です。



Point : 大人は子どもに対し「言うことを聞かない」と感じるかもしれませんが、逆に子どもは大人に対し「つまらないことばかり言う」と感じるかも？でも子どもの（大人の）行動・発言には、すべてに理由があるはずです。

セクシャルハラスメント、 性犯罪防止

不必要な身体的接触の禁止

スタッフは、特に必要性があると認められる場合を除き（※）、スクール生や他スタッフの身体には触れずに業務にあたります。そのため、着替え、風呂・シャワー・トイレ・日焼け止めを塗る等のサポート、膝の上に座らせる・ハグする・抱き上げる・頭をなでる等のスキンシップ行為は、子どもから求められた場合でも、一切行いませんので、ご了承ください。

スクール生同士の間柄では、全面禁止とはしませんが、触られたくない・触りたくないという各自の意思が尊重されます。

（※）【身体的接触が許容される例外】腕相撲などルールが決まっている競技やゲーム等を合意の上で行う場合／怪我をして歩けず背負って移動しなければならない場合／暴力があり引き離さなければならない場合 etc.

セクシャルハラスメント、性犯罪防止ガイドライン

スタッフは、セクシャルハラスメント、性犯罪防止のため、次に定めるルールを厳守し、ガイドラインに沿って業務にあたります。

①子どもと1対1にならない

就寝場所・個室・トイレ・物陰など、第三者の目がない場所や、死角で、スタッフとスクール生が1対1にならないようにプログラムを設計します。また、スタッフは、スクール生と1対1にならないよう、十分に注意し、守るべきルールとします。スクール生と1対1になってしまったときは、即座に解消する責任を負います。

②ハラスメントの定義

親しみを込めたスキンシップなど、「これはハラスメントではない」という行為をする側の考えや感じ方は関係がなく、相手がどう感じたかが問題となります。不必要な身体的接触を行ったり、性的冗談を言ったりしないようにします。また止めてほしいとの意思表示があったときは、同じことを二度としません。

意思表示がなかったとしても、内心で嫌がっていれば、ハラスメントは成立します。「不必要な身体的接触を行わない」「性的冗談を言わない」を徹底します。

③具体的な禁止事項

・性別は関係ありません。女性→男性はもちろん、同性同士でもハラスメントは成立します。

・「男のくせに××」「女の子なんだから××」「男らしく～」「女らしく～」などは、性的役割分担意識に基づく発言で、セクシャルハラスメントに該当します。女性だから料理担当、男性だから力仕事担当etc.の行動振り分けも同様です。

・スクール生を呼ぶときは、名前や本人が希望するニックネームで呼びます。「女の子」「男の子」「男子」「女子」等は、人格を軽視された呼び方だと感じられる可能性があるため避けます。

・NGな発言・行動の具体例

- 1.身体的特徴を話題にする
- 2.性的な冗談を投げかける（直接的でない隠喩や示唆も含む）
- 3.身体を執拗に見つめる、眺め回す
- 4.身体に不必要に接触する、触らせる（マッサージをさせる、など）
- 5.顔を極端に近づける

暴力的行為／傷害への対応

1. スタッフによる暴力的行為の全面禁止

社会に出る将来が目前に迫る10代前半の子どもたちの成長の場としてふさわしい環境となるよう、大人・子ども関係なく、暴力的行為（意図的に怪我させる・させようとする、あるいは怪我に繋がる可能性のある行為）を全面的に禁止します。スタッフによる暴力的行為が発覚した場合は、スタッフ参加の即時停止を含めた、厳しい措置を取り、即座に被害を受けたお子さんの保護者様への連絡を行います。

2. スクール生による暴力的行為、ケンカ、怪我をさせる可能性のある問題行為など【プログラム参加の途中打ち切りの対象】

スクール生による暴力行為も、全面禁止です。暴力行為が発生した場合は、スタッフが即座に介入し、次のとおり対処いたします。

プログラム参加の途中打ち切りとなった場合は、保護者様に現地までお迎えに来ていただくか、お子さん単独で帰宅していただくことになりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

内容	保護者連絡	参加打ち切り (途中帰宅)
ケンカでの身体的接触、問題行為（意図的に人に物を投げる、突き飛ばすなど。危険性が限られる場合）		
大怪我に繋がりがかねない、凶器・鈍器を持ち出して威嚇する等の問題行為	✓	
スタッフ介入2度目となった場合	✓	
スタッフ介入3度目となった場合	✓	✓
相手に病院での治療が必要な怪我をさせた場合	✓	✓

スマートフォン／インターネット 犯罪の防止

スタッフは、子どもと、LINEを含む連絡先の交換をしません

スタッフとスクール生のオンラインでのやり取りは、LINEコミュニティ（オープンチャット）上のみに限り、保護者様に許可をいただいた場合を除き、個別の連絡先交換は行いません。